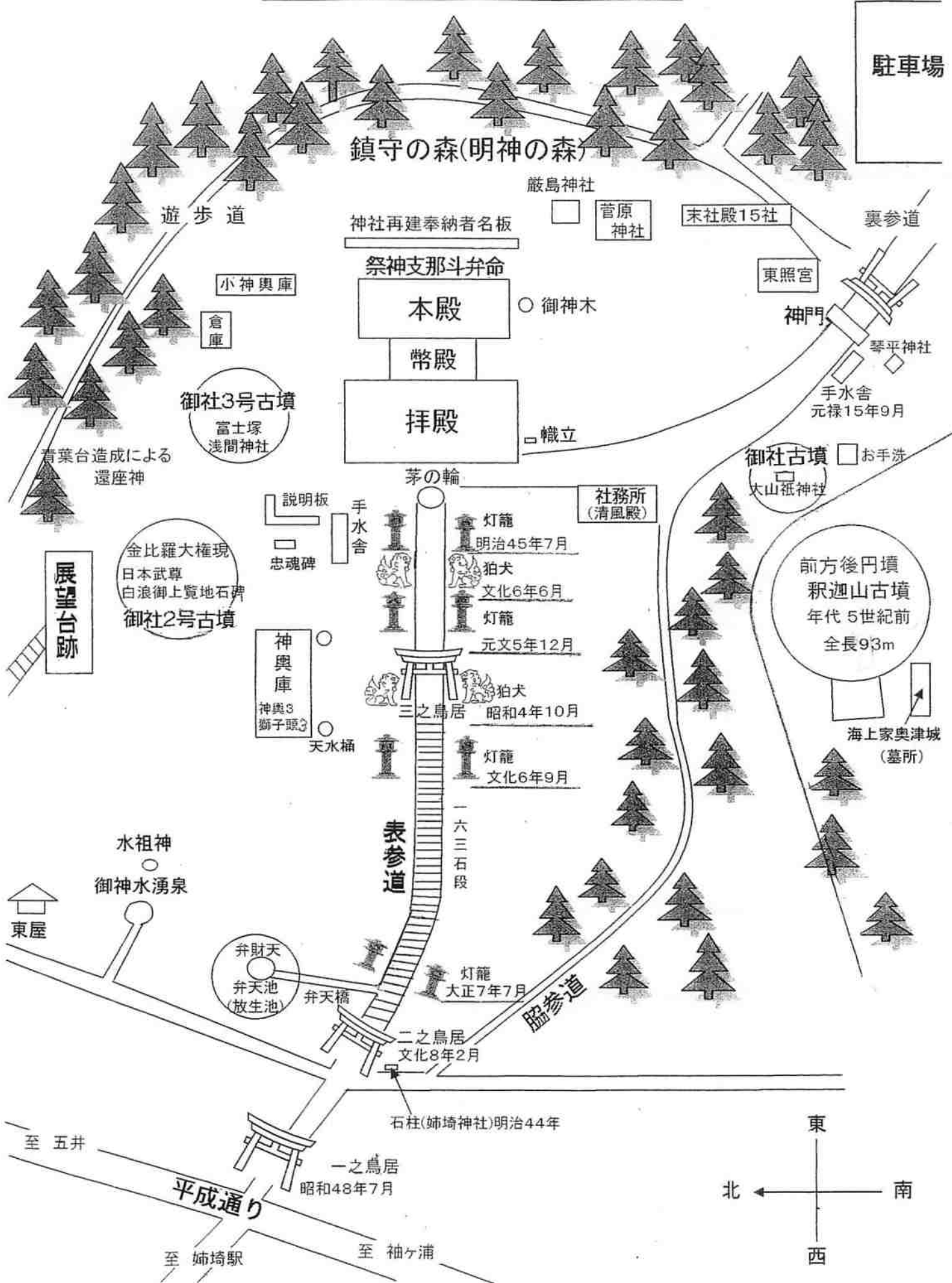


姉崎神社

# 姉崎神社 境内散策



駐車場

鎮守の森(明神の森)

葎島神社

菅原神社

末社殿15社

裏参道

遊歩道

神社再建奉納者名板

東照宮

小神輿庫

祭神支那斗弁命

本殿

御神木

神門

倉庫

幣殿

琴平神社

御社3号古墳

拝殿

手水舎  
元禄15年9月

青葉台造成による  
還座神

幟立

御社古墳

お手洗

説明板

手水舎

社務所  
(清風殿)

金比羅大権現  
日本武尊  
白浪御上覧地石碑  
御社2号古墳

忠魂碑

灯笼  
明治45年7月

狛犬  
文化6年6月

灯笼  
元文5年12月

前方後円墳  
釈迦山古墳  
年代 5世紀前  
全長93m

神輿庫

天水桶

狛犬  
昭和4年10月

海上家奥津城  
(墓所)

三之鳥居

灯笼  
文化6年9月

表参道

一六三石段

水祖神  
御神水湧泉

東屋

弁財天  
弁天池  
(放生池)

弁天橋

灯笼  
大正7年7月

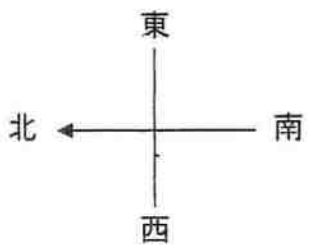
二之鳥居  
文化8年2月

石柱(姉崎神社)明治44年

至 五井

平成通り

一之鳥居  
昭和48年7月



至 姉崎駅

至 袖ヶ浦

神社由来 12代景行天皇の皇子日本武尊が東征の折、相模から房総に渡海するが暴風に遭い、妃の弟橘姫の犠牲によって無事上総の地に着いた。尊はこの宮山の台地に姫を思ひ、風神志那斗弁命を祀たのが始まりという。

祭神 主神 志那斗弁命 (風神, 女神)

- 相殿 に合祀 (二柱以上の神を祀る)
- 日本武尊 12代景行天皇 が この地を訪れ尊の霊を祀る。
- 天兒屋根命 } 忍立化多比命 が二柱を祀る
- 寒三柱神 } (初代上海と国造)
- 大雀命 (16代仁徳天皇) を上海と国造の五世孫忍兼命が祀る

(注) 初代上海と国造 (忍立化多比命) は天穗日命を祖とする天照大神の子孫である。13代成務天皇の御代 上海一帯を統治する。

国造として着任し 姉崎神社を氏神として 守護したと思われる。

(注) 相模の走水から船に乗り、上総に向かう日本武尊は「小さは海はんかひとまらぎ」と言ったことに海の神が大怒り、海は荒れに荒れ 船は先に進む事が出来ませんでした。そこで妃の弟橘姫は海神の怒りを静めようと尊の身代りとなって自から海に身を投げました。すると荒波は止み尊は無事に上総の国に上陸する事が出来ました。

○ 木更津 尊が姫を慕ってここから去りがたかった (君不去) から木更津へ変化したとか。

○ 袖ヶ浦 姫が身につけていた袖が漂着したので名付けられたと言われている。「君去らず袖しが浦に立つ浪のその面影と見るぞ悲しき」

神階 授位 元慶1年(877年) 正五位下

〃 8年(884年) 正五位上

○ 式内社 延喜式の神名帳に登録された神社 (官社) 延喜5年制定

(注) 式内社は天皇の勅願所。祭儀にあたっては国から祭司を派遣し一定の奉幣を行なう定め。神田、封戸、神社に供する、民戸と授かる。

姉崎不入斗地区は姉崎神社の神田と推察されている。不入斗地区内に鎮座する小鷹神社は姉崎神社の別院であったと思われる。

上総国の式内社は5社、玉前神社、橘神社、姉崎神社、島穴神社、飽富神社、

○ 不入斗 (田祖を祀せられる土地)

神社々殿 昭和61年全焼失 平成3年再建立 総檜造り

○ 本殿 流し造り 屋根に千木(外削ぎ) 聖魚木 5本を載せている。

注 千木 内削ぎ女神 外削ぎ男神 聖魚木 隅数女神 2・4・6・8・10本 奇数男神 3・5・7・9本

(神社にお例外もある)

例 焼失前旧本殿 内削ぎ聖魚木 8本 女神

伊勢神宮内宮内削ぎ 10本 女神

外宮外削ぎ 9本 男神

○ 社務所 清風殿 護符守札授子所

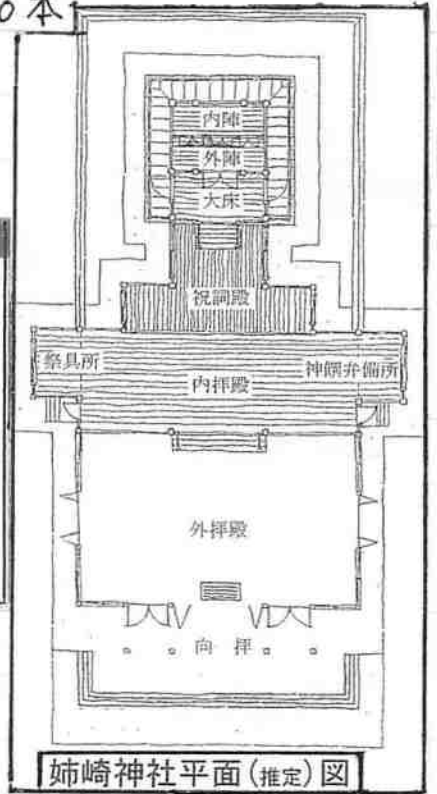
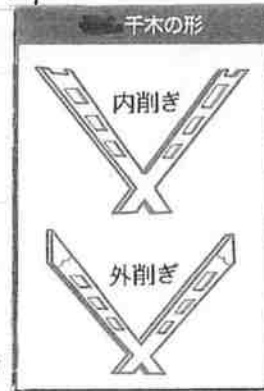
○ 神輿庫 神輿3基 獅子頭 3

○ 神楽殿 無し

○ 御神木 杉若木 焼失は旧御神

木は樹令約700年。現在社殿脇に樹根を展示している。

○ 神門 社殿南側裏参道入口 神額「姉崎神社」  
「萬世太平」



○ 神紋 桐紋 (菊の紋と共に皇室の紋章とされ神紋にも用いられる)

神社名 姉崎神社 500年程前迄は姉前神社の文字を用いていたがその後姉崎神社に変え現在に至る。

注 神社は台地上に位置するため土偏の崎を用い 町は海に突き出た山甲から山偏の崎にいたと思われる。神社は宮山台 海拔50m 姉崎2270番地 境内神社

○ 摂社 (本社に付属して縁故の深い神と祀る。本社と末社の間に位する) 琴平神社、大山祇神社、巖島神社、浅間神社、菅原神社、東照宮。

○ 末社殿 小さな枝社 (近郷の村社等を合祀) 15社 日月神社、稻荷神社、寵神社、大國主神社、神武天皇社、子安神社、奥宮神社、大宮神社、日枝神社、石疑神社、雨降神社、新波三木神社、白鳥神社、栗島神社、才六天宮。

○ 他に弁財天 水祖神 金毘羅大権現と祀る。

○ 青葉台造成による近郷の路傍神を集め祀る。

神事 2月15日 新年祭の行事

7月20日 夏季例大祭 神輿の渡御あり

10月20日 秋季例大祭 流鏝馬の神事 (現在では式典のみ)

## 伝説

- ① 姉弟の神がいて先に姉神がこの地に到着し弟神を待つに事から「あねさぎ」の神社名、地名になったと言い伝えられている。
  - ② 夫神の志那津彦命が狩りに行くと言っては何日も帰ってこないと女神の志那斗命は夫帰りを毎日じりじり待っているうちに、ついに大声で「待つのはいや、待つのはいや」と言ったのを氏子の村人は「松はいや」と聞き違え、境内は勿論、村中の松の木を全部切り倒し、松の名前の人は改名させその後、婚礼の衣服にも松の模様を禁じた。又、正月の松飾りも松を使わず、神と竹を使って門松にかえた。姉崎地区では平成の現在でも松飾りを作らず神飾りを用いている。
- 注 島穴神社の(島野)祭神、志那津彦命は姉崎神社の祭神、志那斗命の夫神である。
- 昔は7月20日祭礼の折に両社の神輿が島野村と姉崎村へ相互の交流があった。

## 伝承

- ① 天慶3年(940年)2月 平将門追討の祈願があり 朱雀天皇より神社へ刀剣一振りが奉納された。  
(天皇勅願所の式内社としての重大時の祈願)
- 注 935年～940年 平将門が関東で反乱をおこす。朝廷は藤原忠文(68才)を征東大將軍に任命し 平将門追討に朝廷軍を遣わしたが、その途次下総では平貞盛、藤原秀郷の軍によって将門軍は敗れ将門は戦死、朝廷軍が到着した時は坂東一帯は鎮定された後だった。後に平貞盛、藤原秀郷は朝廷から恩賞を貰ったが征東將軍の忠文には「ばかった」という。
- ② 源頼朝 治承4年(1180年)  
伊豆石橋山の合戦で大庭景親に敗れて房総に逃れ再起を計り鎌倉へ向う途次、姉崎神社に詣で、社前に軍卒を整えて戦勝を祈願したと言われる。閏兵後神前で流鏑馬の技を奉納した。これにより以後 姉崎神社では毎年10月20日 秋の犬祭に流鏑馬の行幸を行はうようになった。行幸は戦前迄続いたが現在では式典のみとなる。

伝承 ③ 姉崎神社奉納

- 結城秀康 (松平三河守) 徳川家康次男  
社殿建立 (1601年) 神馬1頭, 杉苗500本奉納
- 松平忠昌 (秀康次男) 初代姉崎藩々主 2万石 1607年~1619年  
罌口1, 鳥居1, 杉苗1000本奉納
- 松平直政 (秀康三男) 二代姉崎藩々主 2万石 1619年~1624年

撞鐘, 社輿, 3社  
杉苗1000本奉納  
社領 35石寄進  
東照宮(授社)建立  
(南側参道右側)



姉崎東照宮  
祭神: 日光御同神  
(徳川家康)  
元和4年 1618年  
11月 松平直政  
寄進 (方三尺)

④ 慶応4年 戊辰戦争の際, 姉崎神社境内に官軍に対して徳川義軍 300人程が砲を据えて陣地を作ったが砲1発射ったのみで戦かわずして敗走した。

境内遺跡 ○ 御社2号墳 (神輿庫裏) 円形墳 別名 白浪古墳(精舎)

近世以降 各部を削り取られ旧状をとどめない。

( 神輿庫 } 造営のため整地  
展望台 ) 等による

隣接の富士塚築造の際の封土  
頂部に日本武尊 白浪御上覧記念地石碑

〃 金比羅大権現 (石碑文化11年(1814年) 海-船の守り神)

○ 展望台跡. 天正初期 2号墳上の老樹を切り開き腰掛等を設け  
景観を添えたところ。

○ 御社3号墳 (2号墳東隣り) 円形墳 未調査  
古墳をそのままに富士塚を築いている, 塚, 築造時に隣接の2号墳と  
一部切り崩し封土を使用したと見られる。頂部に浅間神社を祀る

⑤ 江戸時代 山岳信仰による富士講が流行した。

○ 御社古墳 (神門西側) 別名 宮山古墳 未調査  
頂部に大山楳神社を祀る, 墳上に数本の楠木あり



## 神社(宮山)近辺

- 宮山遺跡 昭和61年社殿焼失地発掘調査の際、弥生時代の住居跡数軒出土。古代この地にある程度の集落があったと見られる。
- 鎮守の森 俗に明神の森と呼ぶ。台地は海拔50<sup>m</sup> かつては全山老杉がいつそうと繁り海に行く漁舟にとっては大事な目印であった。現在では森も周辺の開発によって昔の面影も薄れてきた。
- 宮窪 神社北東右側の地区。地名通り低く窪んだ所がある。昔神社の下迄海波が来ていた頃舟着場があった場所と言いつたられている。
- ほらぎ坂(神社東脇坂道) 流鏝馬が行なわれた所。  
金筒先のかぶらが訛ってほらぎ坂になったという説がある。

## 姉崎の名の由来

姉前 旧神社名(前)姉神が弟神より先前  
に来たとの伝説がある。

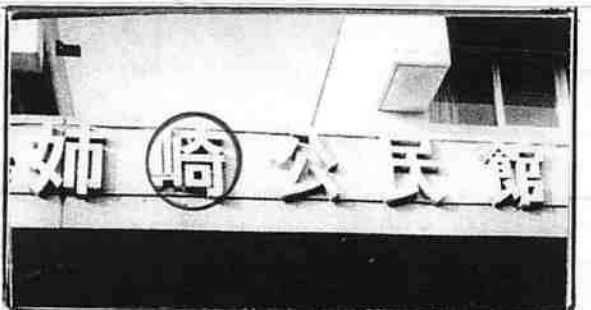
姉埼 現神社名(埼)台地の先端  
1500年頃姉前から改称。

姉崎 現町名(崎)海へ突き出た岬

姉ヶ崎 JR駅名(ヶ)江戸時代以降  
俳句等の普及で姉ヶ崎と  
いう表現が流行通称となつた。

⑨ 鶴牧村 1889年～1892年  
姉崎は明治22年8村併合し鶴牧  
村が誕生。明治25年再度姉崎  
町と改める。

鶴牧村～姉崎町(姉崎、推津、畑田、  
片又木、不入斗、豊茂、立野、畑木、漆城)



表参道。一鳥居(平成通り)昭和48年7月 木造(明神鳥居)

神社の森の杉木を用いて建立

- 弁天池(放生池)参道左側 以前には右側にもあつたが現在は消滅して左側のみ、池の中央に弁戔天を祀る

(注) 池は昔 放生池として使われていたと思われる。

放生会、昔式内社としての儀式(旧暦8月15日)殺生を戒めるため獲った魚や鳥を購入して池に放す自然に返す行事。  
式に掛かる費用は放生田、神田からの収入で賄った。

今でも京都の石清水八幡宮の放生会  
は著名である。

- 御神水(湧泉)池北側に古来より枯れる事なく宮山より湧水により御霊水として水祖神を祀る。

- 二之鳥居(石段下)通称大鳥居

石造り 文化8年2月(1811年)建つ

- 石柱(式内 姉崎神社)前は神社前旧街道と参道の辻にあつたものを数年前に現在地に移す。



(注) 夫婦杉 かつては大鳥居前に2本の杉木があり途中で1本の枝によって連結されていた、この夫婦杉によって姉崎神社は良縁を授かる縁結びの神と言われるが昔しくも今は枯れて消滅した。

- 参道石段 163段あり昔は例大祭の神輿が昇り降りしたが現在は神社脇のぼらぎ坂と大塚の大井戸坂を巡行する。

- 三之鳥居(石段上)石造り 明治41年(1908年)7月建つ。

- 茅の輪(拜殿前)6月30日の夏越祓いの具、この輪をくぐると厄除け、疫病払いに御利益があると言われている。

- 手水舎(社前左側)平成2年11月建つ。

(注) 手水舎は拜前に立寄る場所のため通常参道左側に設置する(右側通行)

- 灯笼 左右1対 大正7年7月

〃 左右1対 明治45年7月

〃 左右1対 文化6年9月

〃 左右1対 元文5年12月(姉前大明神の刻字)



- 狛犬 左右1対 文化6年6月建
- 〃 左右1対 昭和4年10月建

⑦ 狛犬 (鷹獅子) 神の使い 魔除け 霊獣 (中国より渡る)  
 左右の狛犬は阿型の方ほど口を開き 吽型の方ほど口を閉じている。  
 阿吽とは 吐く息と吸う息、陽と陰、物事の始まりと終りを示し阿吽の呼吸とも言う。

⑧ 神社寺院の中には 狛犬以外の魔除けを祀る所もある。  
 金剛力士像(寺院) キツネ(稻荷神社) 狼(三峯神社)  
 猿(日枝神社)等

裏参道

- 鳥居 石造り 明治19年4月(1886年)
- 旧手水舎 元禄15年9月(1702年)

寄進者 姉崎屋四郎左衛門

⑨ 姉崎屋四郎左衛門は江戸日本橋小網町で穀物問屋と営む  
 姉崎出身の人物である。

元禄8年 姉崎近辺で起きた不幸な出来事「お竹騒動」によって遠島の刑に陥った名主達の赦免と祈願して元禄15年 神社に手水鉢を奉納したと言われている。

⑩ 姉崎四郎左衛門は遠島に陥った 姉崎村名主 治部兵衛の下僕、市兵衛が奉行所への嘆願の手続きの折、これと助け又、穀物問屋の利益を生かして 流人の島との消息、文通を手助けをする等 身を捨てて赦免嘆願に尽力した。後に市兵衛共々奉行所より莫大な褒美を頂戴し 以後幕府の永代御用商人として栄えた。



奉寄進石盤  
 江戸小網横町  
 本願 姉前屋四郎左衛門  
 同姓 源七郎  
 姉前大明神  
 本莊町秋田三郎兵衛  
 惣十郎町口田又右衛門  
 富澤横町矢那瀬傳兵衛  
 小田原町齊藤上右衛門  
 元禄十五年壬午九月吉日  
 安藤長左衛門作

## 頼朝伝説 姉崎

安房から上総へ入った頼朝は、袖ヶ浦市の飯富神社で休息し、同社の神官に案内をさせ、立野に向かいました。神官は袖ヶ浦三作の人で、付近の地理に明るかったといいます。途中深城に立ち寄り、ここで兵を検閲しましたが、そのときに塚を築かせ、塚上で閲兵をしたといいます。現在この小高い丘はそれになんで御所寛塚と呼ばれています。塚の側には方形の低地があり、枳形堀と呼んでいます。ここに兵を集合させたといいます。

頼朝は豪族立野長右衛門家(現在の切替家)に数日の間滞在し、上総国府の様子をうかがったり、情報を収集し軍勢の強化を図りました。

ところで頼朝は安房に上陸すると間もなく、地元の豪族の招請に応じて館山市の洲崎明神に武運長久を祈願しましたが、立野に滞在中長右衛門の裏山にも洲崎明神の分霊を祭りました。安房洲神社と号し、剣を奉納して戦勝を祈願しています。なお立野家の裏山に山見塚という墳丘があり、頼朝はこの塚の上に立ち、上総国府辺りを展望し、戦況をうかがったといいます。

立野家のすぐ近くには豊成不動院があります。ここは出世不動として武人の参拝も多かったところです。頼朝も参拝し、武運長久を祈願したと伝えられています。後に当社は姉崎の鶴牧藩主水野忠順の祈願所になり、深く信仰されることとなりました。

頼朝は立野家を立つ時、同家の竹林から竹を切らせ旗竿の取り替えを命じました。この故事にちなみ、後年立野長右衛門は切替の姓を与えられました。

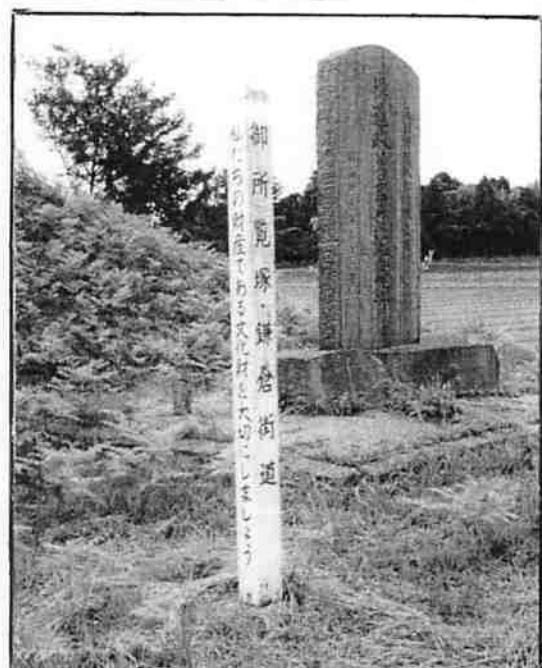
## 姉崎神社で兵を整え 島穴神社へ

姉崎神社には、頼朝が社前で軍卒を整えたという伝えがあります。これより姉崎神社では、流鎗馬の神事を執り行うようになりましたが、戦後秋祭りに流鎗馬が行われたのは1回だけでした。農業機械の発達などにより、馬の調達が困難になってしまったためです。当社には頼朝が腰を掛けたという臼がありましたが、火災で消失してしまいました。

姉崎神社で軍を整えた頼朝は、島穴神社に兵を進め当社に神田35石を寄進しています。



頼朝が滞在した切替家



## おたけ事件と儀僕市兵衛

江戸時代元禄期の「生類憐れみの令」は、鳥獣による農作物の被害に拍車をかけました。耐えかねた姉崎周辺の人々は獵師を雇い、元禄8年(1695年)に鉄砲で駆除を行う山狩りをしました。

しかし、獵師の惣兵衛と案内の深城村九左衛門が大須林山に山狩りに入ったとき、不運な事件が起きてしまいました。稲をこくための竹を採っていた九左衛門の女房 たけを、獵師がイノシシやシカと間違え鉄砲で撃ってしまったのです。弾丸はたけのわき腹に命中し、その場で命を絶ちました。

事件を表ざたにしてはいけないと、村の名主と遺族が何日も解決方法を相談しました。そして、獵師は高野山(和歌山県)で出家し、たけの供養をすることと、遺族に弔慰金五両を支払うということで示談となりました。

しかし、もうすでに事件は近隣に知れ渡っていました。房州峯岡 御馬掛 代官の手代(代官所の実務をする役人)が、五井宿から姉崎宿へ通行したときお供をした馬方が事件を手代に話したため、幕府にも事件のことが伝わってしまったのです。

やがて、幕府は刑事事件を示談にしたことを大問題とし、小間物商人に変装させた隠密を放ち、真相の調査をしました。そして同年10月、勘定吟味役の荻原重秀の役所から関係者に出府の命令書が下りました。

おたけ事件に対する幕府の処罰は獵師を死罪、関係した村の名主を財産没収、伊豆大島・三宅島に遠島という予想を超えた重いものでした。

残された家族は屋敷や田畑を無くし途方に暮れてしまったのです。大島に流罪となった姉崎村名主次郎兵衛の家族は、父と妊娠中の妻、6歳の娘、3歳の息子でした。それからは家来百姓の市兵衛が主人の恩義に報いるため、11年間にわたって養育に尽くしました。

また、市兵衛は江戸小網町で穀物門屋を営む姉ヶ崎屋四郎左衛門の援助により、何度も主人の赦免を幕府に嘆願し、最後には主人の身代わりを申し出るほどでした。

やがて、市兵衛の行いは幕府にも認められ、宝永2年(1705年)3月、勘定奉行の荻原重秀から表彰されたのです。そのうえ、主人が没収された屋敷や田畑6町余りは、市兵衛の願いで市兵衛と主人の息子万五郎に褒美として与えられました。こうして、宝永3年前將軍綱吉一周忌の恩赦によって、次郎兵衛の帰国が認められました。

この一件は徳川光圀(黄門)の意見で幕府儒官(儒学を教授する官史)の林信篤により、儀僕の忠孝美談としてまとめられ、「元禄鉄砲記」「土民市兵衛記」(市史料集近世編2所収)などとして流布しました。

また、昭和15年の直木賞小説で村上元三氏の「上総風土記」の題材にもなりました。

市兵衛は主人が刑に就していた日より、毎夜丑の刻を期して姉崎神社に詣で、主人の宥免を祈願しました。姉崎神社は延喜式の神名帳にみえる格式高い社です。

市兵衛戒名 宝林院全了日忠  
享保19年4月2日没 72才  
起きて聞け此のほととぎす 市兵衛記  
宝井其角の句碑が建つ姉崎妙経寺境内







姉崎神社



183 09 05



神門



拝殿



旧御神木樹根



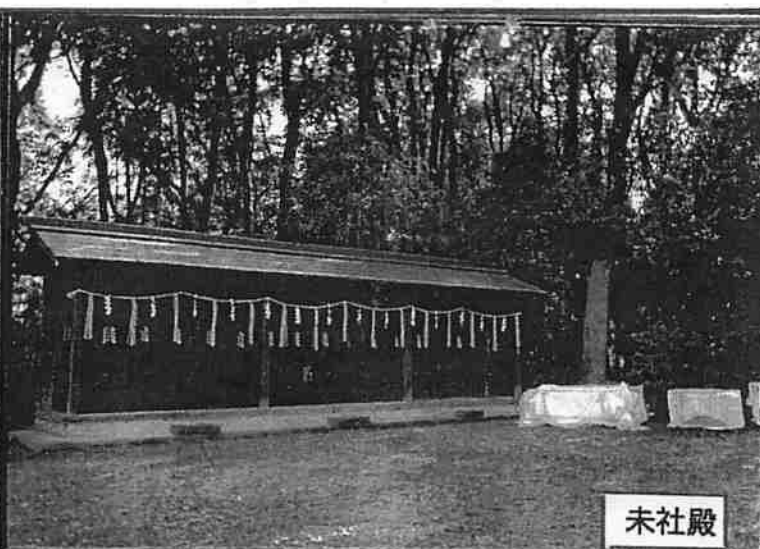
清風殿(社務所)



神庫



菅原神社



未社殿



説明坂



御社古墳



弁財天



青葉台地区 路傍神



旧手水舎

